

種豚改良技術確立試験

須永静二, 前田育子¹, 相馬由和

Establishment of Improvement Technique for Breeding Swine

Seiji SUNAGA, Ikuko MAEDA, Yosihkazu SOMA

要 約

現在の肥育豚は、LW・Dの三元交雑が主体となっている。三元交雑のなかでランドレース種はF1母豚の生産上重要であり、高い繁殖能力、発育能力、優良な資質が求められる。

このため、優良なランドレース種豚を作出し、県内の養豚農家に種豚及び精液の払い下げを行うとともに払い下げ先農家の繁殖能力や産肉能力の情報を得ることにより広域的な改良増殖を図る。

本年度は20腹の分娩で子豚189頭を生産した。育成豚は雌21頭、精液は3頭分を払い下げた。

キーワード：ランドレース、改良増殖

緒 言

我が国へ最初にランドレース種が導入されたのは昭和35～36年である。まだ大型品種が普及していなかった当時は飼養管理の難しさや繁殖障害が多く出るなどの理由で敬遠されることもあったが、品種の特徴が理解されたことや高い産肉能力により急激に増加し、中ヨークシャー種やパークシャー種等の中型種からランドレース種をはじめとする大型種へ飼養形態が移行するさきがけとなった。その後、改良が進み日本に定着したランドレース種は三元交雑の基礎となる種雌豚として広く用いられるようになった。昭和50年代以降はデュロック種が止め雄として普及し、現在でもLW・Dの三元交雑が肉豚全体の8割近くを占めている¹⁾。

三元交雑におけるランドレース種の役割はF1母豚生産であり、基礎となる部分である。そのため、高い繁殖能力、産子の発育能力、強健性を子豚に伝えなければならない。

高い能力のランドレース種を増殖・払い下げすることは、養豚経営の安定向上に大きな影響を与えるものと考えられる。

この試験は当研究所の外から優良な種豚や精液を導入してさらに優れた種豚を作出し、それを県内の農家に払い下げることにより、広域的な改良効果を生み出すことを目的とする。

材料および方法

種豚改良に用いた種豚は以前から当所で飼養していたランドレース種と平成11年度に外部から導入したランドレース種。

基本計画は図1のとおりで、常時、種雌豚13頭、種雄豚2頭を飼養し、これらの豚及び輸入精液を用いて改良増殖した。

年2回の集中分娩のうち、母豚13頭の分娩では1腹当たり概ね雌雄各1頭の育成豚を選抜し、その中で優良なものを更新豚とした。次の母豚7頭の分娩では、生産されたもののうち優秀な育成豚は農家への払い下げ豚とした。その他、毎年、輸入精液の計画的な導入、外部からの繁殖豚の導入を行った(図1)。

育成豚は、自家検定を実施し発育成績を明確にした。育成豚の選抜にあたっては、検定成績や体型並びに肢蹄の状況等を考慮して行った。

育成豚の配布は、7～8ヶ月齢でおこない、精液の払い下げは、随時実施した。

結果及び考察

本年度は、20腹分娩し189頭の子豚を生産した。離乳子豚数は177頭で育成率は93.7%であった。また、子豚の生時および3週齢時平均体重は、それぞれ 1.59 ± 0.31 kgと 6.39 ± 1.23 kgであった。

1 現 茨城県北家畜保健衛生所

雄 17 頭及び雌 18 頭については、(社)日本種豚登録協会の方法により豚産肉能力直接検定を実施した(表 2)。

雄 17 頭の直接検定成績の平均は、1 日平均増体重は 885.5 g、飼料要求率は 3.39、ロース断面積は 30.6 cm²、背脂肪層の厚さは 1.6 cm であった。

雌 18 頭の現場直接検定成績の平均は、1 日平均増体重は 785.5 g、ロース断面積は 32.3 cm²、背脂肪層の厚さは 1.6 cm であった。

養豚農家へは育成豚雌 21 頭を配布、精液 3 頭分を払い下げた。

産肉能力は昨年度まで向上傾向にあったが、本年度は平均並みかやや低い傾向が見られた。また、全国平均²⁾と比較しても同等あるいはそれ以下の成績であった。今年度は種豚および精液の導入をしておらず、豚群の数も 15 年度より半減させたことが影響したと考えられる。繁殖成績のうち生産子豚数は例年並であったが、離乳時育成率は昨

年の 88.7%より改善された。今後も引き続き子豚の健康管理に留意するとともに、母豚の泌乳能力にも注意して選抜改良を進める。また、豚の能力と血統(系統)の関係等も調査し、改良を進める。

引用文献

- 1)日本の養豚 編集部(2000) 本誌に見る養豚 50年の歩み 日本の養豚 2000年1月号
- 2)社団法人 日本養豚協会 豚産肉能力検定全国成績 (H16年度)

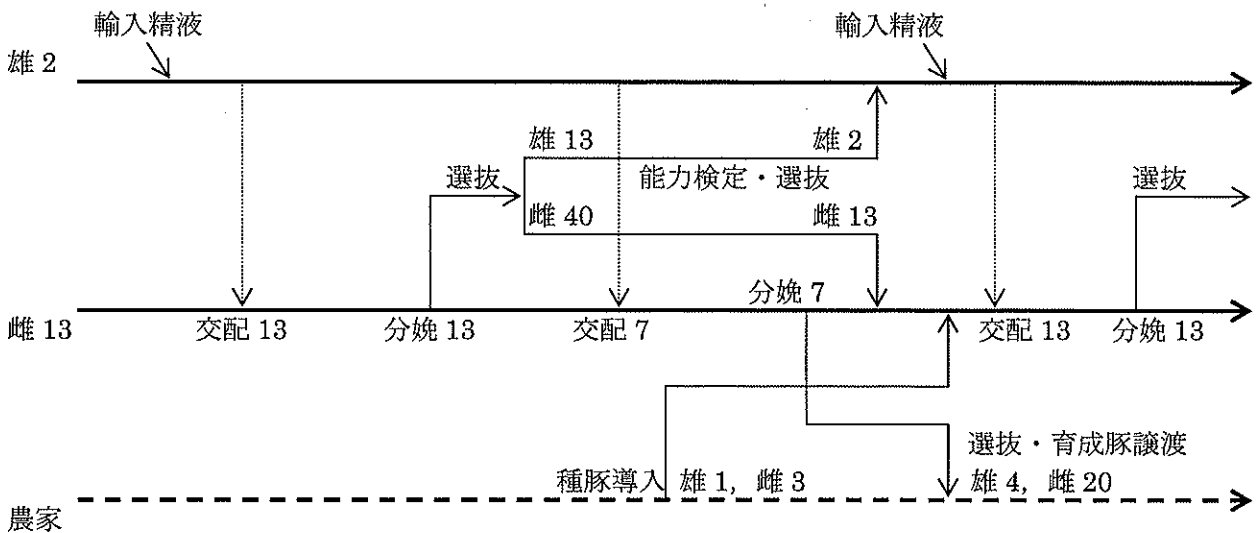


図 1 基本計画

表 1 繁殖成績

分娩腹数	生産子豚数	離乳子豚数	育成率	生産子豚平均体重	3 週齢時平均体重
腹	頭	頭	%	kg	kg
20	189	177	93.7	1.59±0.31	6.39±1.23

表 2 産肉能力検定成績

項 目	検定豚 (雄)		検定豚 (雌)	
	2004 年度	2001～03 年度平均	2004 年度*	2002～03 年度平均
検定頭数	17	37	18	21
1 日平均増体重 (g)	885.5±65.7	931.5±36.6	785.5±69.3	810.0±40.2
飼料要求率	3.39±0.37	2.94±0.08	-	3.36±0.09
ロース断面積 (cm ²)	30.6±5.4	36.5±7.0	32.3±5.9	34.2±6.7
背脂肪層の厚さ (cm)	1.6±0.2	1.7±0.1	1.6±0.2	1.8±0.1

* : 2004 年度検定豚(雌)は、現場直接検定成績